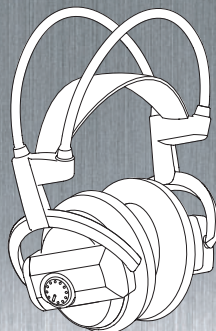
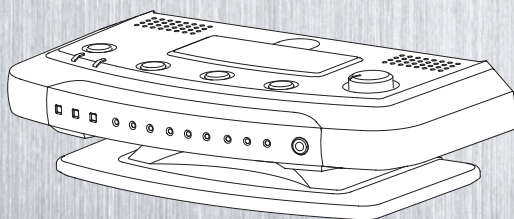
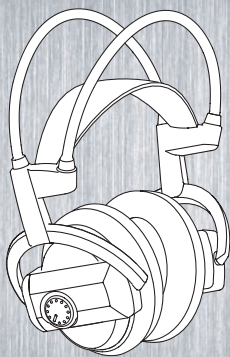
# 取扱説明書

デジタルコードレスサラウンドヘッドホン

# SE-DIR800C

# DIGITAL CORDLESS SURROUND HEADPHONE

別売デジタルコードレスヘッドホン
SE−DHP800

このたびは、東北パイオニアの製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。ご使用の前にこの「取扱説明書」を最後までよくお読みの上、『安全上のご注意』に従い正しくお使い下さい。お読みになった後は保証書、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管して下さい。また、この製品は一般家庭用として作られたものです。営業目的で使用し故障した場合は、保証期間内でも有償修理を承ります。

Pioneer

# 目次

# 安全上のご注意

## 安全に正しくお使いいただくために、必ずお守り下さい。

●ご使用の前にこの「安全上のご注意」と「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。
●お読みになった後は、いつでも見られる所に必ず保存してください。

この安全上のご注意、取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。



危険

この表示の欄は「人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容」を示しています。

警告

この表示の欄は「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

注意

この表示の欄は「人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

## 絵記号の例

△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）

⃠記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

【異常時の処置】
万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ずACアダプターをコンセントから抜いて下さい。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼下さい。お客様による修理は危険ですから絶対おやめ下さい。

万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、ACアダプターをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

万一本機を落としたり、破損がある場合は、機器本体の電源スイッチを切り、ACアダプターをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

【設置】
ACアダプターの電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。

放熱をよくするため他の機器、壁等から間隔をとり、またラックに入れる時はすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
・あおむけや、逆さまにする。
・押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
・テーブルクロスなどをかける。

【使用環境】
この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。風呂場等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

表示された電源電圧（交流100ボルト50／60Hz）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

100V以外禁止

この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。

禁止

【使用方法】
本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物をおかないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

禁止

本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

禁止

本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

分解禁止

ACアダプターの電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、ひっぱったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

禁止

雷が鳴り出したら、充電用接点や電源プラグに触れないでください。感電の原因になります。

禁止

付属以外のACアダプターを使わないでください。破損・液漏れや、過熱などにより、火災、ケガや周囲の汚損の原因となります。

禁止

【設置】
ぬれた手でACアダプターを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

禁止

電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となる事があります。

注意

テレビ、オーディオ機器等に本機を接続する場合は各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

注意

【使用方法】
通電中のACアダプターに長時間ふれないでください。長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

禁止

ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与える事があります。

注意

旅行などで長時間ご使用にならない時は、安全のため必ずACアダプターをコンセントから抜いてください。

プラグを抜く

【保守・点検】
5年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。尚掃除費用については販売店などにご相談ください。

注意

お手入れの際は安全のためにACアダプターをコンセントから抜いて行ってください。

プラグを抜く

# 電池についての安全上のご注意

## 液漏れ・破損・発熱・発火による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守り下さい。

本機では以下の電池をお使いいただけます。電池の種類については、電池本体上の表示をご確認ください。

●充電式電池
ニッケル水素（Ni-MH）単3形

●乾電池
アルカリ単3形　マンガン単3形



### 充電式電池について

●付属の充電式電池を他の機器に使用しない。
●機器の表示に合わせて+と−を正しく入れる。
●本機以外で充電しない。
●火の中に入れない。分解、加熱しない。
●火のそばや直射日光のあたるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管・放置しない。
●コイン、キー、ネックレスなどの貴金属と一緒に携帯・保管しない。ショートさせない。
●外装のビニールチューブをはがしたり傷つけない。
●液漏れした電池は使わない。
●指定された種類以外の充電式電池は使用しない。
●使い切った電池は取りはずす。長時間使用しないときも取りはずす。

⚠ 警告

### 乾電池について

●機器の表示に合わせて+と−を正しく入れる。
●充電しない。
●火の中に入れない。分解、加熱しない。
●火のそばや直射日光のあたるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管・放置しない。
●コイン・キー・ネックレスなどの貴金属と一緒に携帯・保管しない。ショートさせない。
●外装のビニールチューブをはがしたり傷つけたりしない。
●指定された種類以外の電池は使用しない。
●液漏れした電池は使わない。

●使い切った電池は取りはずす。長時間使用しないときも取りはずす。
●新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わない。

Ni-MH

**お願い**

使用済み充電池は貴重な資源です。端子（金属部分）にテープを貼るなどの処理をして、充電池リサイクル協力店に持参ください。
充電式電池の回収･リサイクル及びリサイクル協力店については、社団法人電池工業会ホームページ
http://www.baj.or.jp/を参照して下さい。

液もれが起こった時は、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい電池をいれてください。

## アルカリ電池の液が漏れたときは･･･

### 素手で液をさわらない

● アルカリ電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることがあります。

### 必ず次の処理をする

● 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けて下さい。
● 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

# 主な特長

## *Hi-Performance&Hi-Quality*（高性能・高品質）

●全てのソースを高品位なヘッドホンサラウンドへ変貌させるドルビーヘッドホン搭載
●「ノイズレス」「広帯域」「高音質」非圧縮デジタル赤外線伝送方式を採用
●最新のドルビー*プロロジックⅡ、ドルビーデジタル、DTS**デコーダー内蔵。DVD、ゲーム機、パソコンはもちろん、ビデオやテレビもマルチチャンネルサラウンド音場再生を実現
●D/A・A/D変換部を含む全ての音声信号処理は24bit精度でデジタル処理（トランスミッター部）高精度かつ高音質を実現
●φ40の大口径振動板ヘッドホンユニット採用による臨場感あふれる迫力サウンドを実現

## *Easy Use*（気軽に使えて簡単操作）

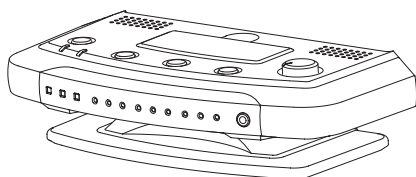
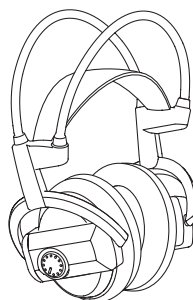
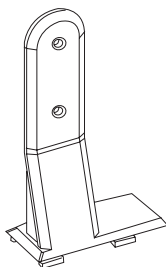
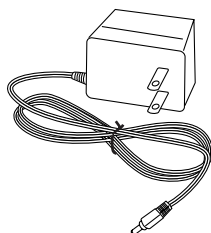
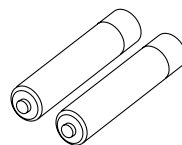
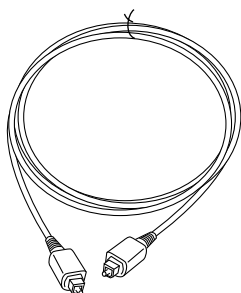
●ケーブル1本でAV機器と簡単接続、オート機能で簡単操作
●スリム&スモールデザイン
●縦・横、両方の置き方が出来るフリーレイアウト
●専用ヘッドホン（SE-DHP800・別売り）を増設することで、多人数でサラウンドサウンドを楽しむことが可能
●コード付きヘッドホンも使用できるヘッドホン端子とボリュームを装備
●ヘッドホンの電源は、付属の充電式ニッケル水素電池でも市販の乾電池でも使用可能
●ヘッドホンに操作が容易な大型ボリューム装備
●ムレやベタ付きを防止するジャージ素材の快適イヤーパッド

*本機はドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、Dolby、Pro Logic及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

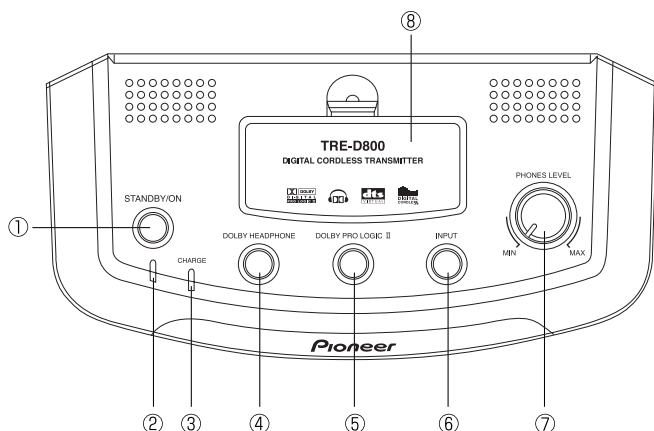
**本機はデジタル・シアター・システムズ社からの実施権に基づき製造されています。DTS、DTS VIRTUALは、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

# 製品の構成

本機をお使いになる前にすべてそろっているか確かめてください

トランスミッター

ヘッドホン

縦置き用スタンド

ACアダプター

専用充電式ニッケル水素
電池（2本）

光デジタル接続ケーブル
（角型←→角型）

取扱説明書
保証書
ご相談窓口・修理窓口のご案内

# 各部の名称と働き

## トランスミッター天面

### ①スタンバイ/オンボタン

電源をオン/オフします。

### ②スタンバイインジケーター

電源が入ると消灯します。

電源が待機状態になると点灯します。

### ③充電インジケーター

充電池を充電中に点灯します。

充電終了後消灯します。

### ④ドルビーヘッドホンモードボタン

ドルビーヘッドホンモード（DH1/DH2/DH3/OFF）の切り替えに使います。

### ⑤ドルビープロロジックⅡモードボタン

ドルビープロロジックⅡモード（AUTO/MOVIE/MUSIC/OFF）の切り替えに使います。

### ⑥入力切り替えボタン

入力（DIGITAL1/DIGITAL2/ANALOG）の切り替えに使います。

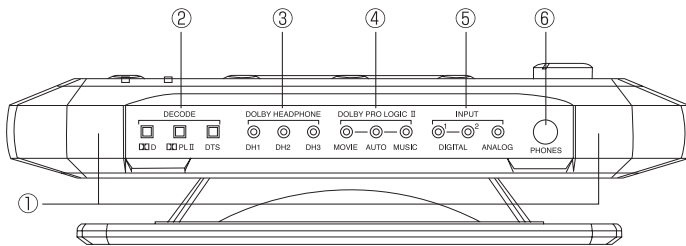
### ⑦音量つまみ

前面PHONES端子につないだヘッドホン（別売り）の音量を調整します。

### ⑧電池ケース

電池ブタのつめ部分を引っ張るとフタが開きます。付属充電池を充電する際に使用します。

# 各部の名称と働き

## トランスミッター前面

### ①赤外線発光部

赤外線を発光する部分で、左右2カ所にあります。赤外線発光部が正面から見通せる位置に設置してください。

### ②デコードモードインジケーター

入力された音声信号の記録方式をトランスミッターが自動判別して点灯します。ドルビーデジタル/DTS/PCMなどの音声切り換えは、接続した機器側（DVDプレーヤー、BSデジタルチューナーなど）で行ってください。

・D :Dolby Digitalフォーマットで記録された信号

・PL Ⅱ :2チャンネルの信号（PCM及び2chのDolby Digitalで記録された信号又はアナログ）がDolby Pro Logic Ⅱ処理された場合。

・DTS :DTSフォーマットで記録された信号

### ③ドルビーヘッドホンモードインジケーター

ドルビーヘッドホンモード（DH1/DH2/DH3）を表示します。

### ④ドルビープロロジックⅡモードインジケーター

ドルビープロロジックⅡモード（AUTO/MOVIE/MUSIC）を表示します。

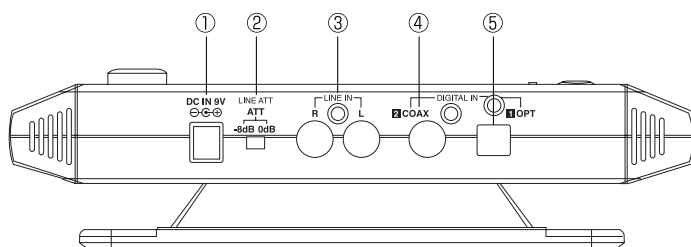
### ⑤入力インジケーター

選択している入力（DIGITAL1/DIGITAL2/ANALOG）を表示します。

### ⑥PHONES端子

ヘッドホン用の接続端子です。

# 各部の名称と働き

## トランスミッター背面

①DC IN端子（詳しくは21ページ）
付属のACアダプターをつなぎます。（必ず付属のACアダプターをお使いください。プラグの極性など異なる製品を使うと、故障の原因となり危険です。）

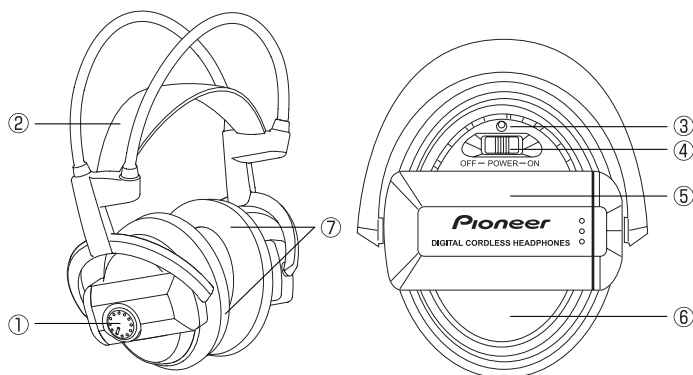
②ATTスイッチ（詳しくは20ページ）
アナログ入力で音声が小さい場合は「0dB」に切り替えます。通常は「−8dB」にして使います。

③LINE IN（ライン入力）端子（詳しくは20ページ）
ビデオデッキやテレビなど、AV機器の音声出力端子に接続します。

④DIGITAL IN 2 COAX
（デジタル入力2 同軸入力）端子（詳しくは19ページ）
DVDプレーヤーやLDプレーヤー、CDプレーヤーなどデジタル機器の同軸デジタル出力端子に接続します。

⑤DIGITAL IN 1 OPT
（デジタル入力1 光入力）端子（詳しくは19ページ）
DVDプレーヤーやLDプレーヤー、CDプレーヤーなどデジタル機器の光デジタル出力端子に接続します。

# 各部の名称と働き

## ヘッドホン

①VOL（音量）つまみ

音量を調整します。

②フリーアジャストバンド

頭にかけると自動的にフィットします。

③POWER（電源）インジケーター

電源スイッチをONにすると点灯します。

④POWER（電源）スイッチ

電源をオン/オフします。

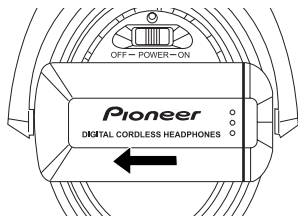
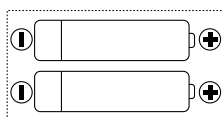
⑤電池ケース

電池ブタの突起部分を押してスライドさせるとフタが開きます。付属充電式電池及び単3形乾電池用です。

⑥ 赤外線受光部

左右2カ所にあります。

⑦イヤーパッド

# 電池の入れ方

1.電池ぶたの突起部を押しながら、左にスライドさせてふたを開けます。

2.極性表示通りに電池を入れます。

3.電池ぶたを右にスライドさせて、ふたを閉めます。

接続と準備

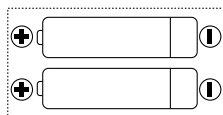
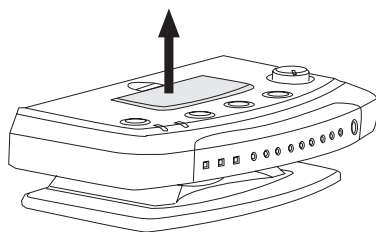
## 使用する電池について

ヘッドホンの電源には付属充電池を2本または単3形乾電池を2本使用します。
使用する電池は2本とも同じ種類のものを使用してください。

## 電池の交換時期

電池が消耗するとPOWERインジケーターが消え、音が出なくなります。付属充電池の場合、「充電のしかた」に従って充電してください。乾電池の場合は乾電池を2本とも新しいものと交換してください。ヘッドホンを連続使用した場合の電池の寿命はおおよそ以下のとおりです。

付属充電池（フル充電時）：約16時間
単3形アルカリ電池　　：約27時間
単3形マンガン電池　　：約10時間

# 充電のしかた

1. トランスミッターのDC IN端子に付属ACアダプターのプラグを差し込み、ACアダプター本体を電源コンセントに差し込みます。

2. トランスミッターの電池ケース部のふたを開けます。

3. 極性表示通りに付属充電池を入れ、ふたを閉めます。

4. トランスミッターの充電インジケーターが点灯し、充電を開始します。10時間でフル充電状態になり、充電インジケーターが消灯し、充電を終了します。

## 充電インジケーターについて（詳しくは11ページ）

赤色点灯……………充電中

充電インジケーターが点灯しないときは、正常な充電状態ではありません。
以下の事が考えられるので、充電池挿入口などを確認してください。

●充電池が正しく挿し込まれていますか?
●充電池の向き（プラス（+）端子とマイナス（−）端子）が表示と同じですか?
●トランスミッターの充電端子が汚れていませんか?
●付属の充電池以外の電池が入っていませんか?

充電開始5秒後に充電インジケーターが消灯した場合は充電池の著しい劣化が考えられます。その場合は、新しい充電池とお取替えください。
新しい充電池については、ご相談窓口または、お買い求めになった販売店にご相談ください。

**最初にお使いになる時は、必ず充電してください。**
充電池の容量が減少すると、ヘッドホンを装着しても電源インジケーターが点灯せず、音が出なくなりますので、再度充電してください。

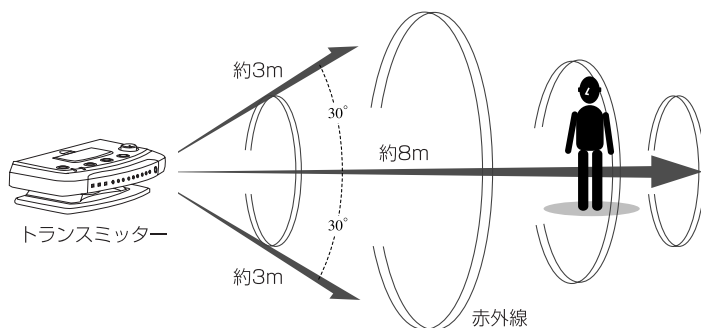
充電時間の目安と使用可能時間

| 充電時間 | 使用可能時間 |
|---|---|
| 2時間 | 約4時間 |
| 10時間 | 約16時間 |

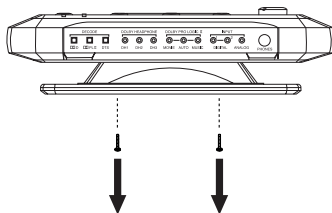
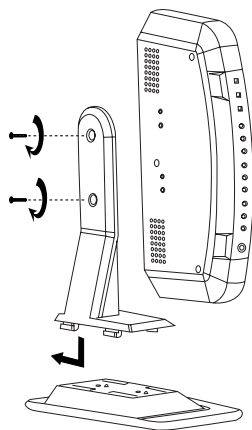
# 充電時のご注意

- バッテリーは化学反応を利用しています。
  周囲の温度の影響を受けやすいため、充電は極力10℃〜35℃で行ってください。
- 過充電はしないでください。
  バッテリー保護のため、フル充電したバッテリーを何回も繰り返し充電しないでください。
- 充電後はバッテリー部分が暖かくなりますが異常ではありません。
- 本機には、付属のACアダプターをご使用ください
  付属以外のACアダプターを使用しますと故障の原因になります。
- 本機では、付属充電池以外は使用しないでください。本機は安全のため、付属充電池のみ充電できるようになっています。
  市販の充電池を使っても充電できませんのでご注意ください。
- 本機で充電しても使用時間が短くなった場合は、電池の寿命がきていますので、お買い求めになった販売店にご相談ください。

# 設置のしかた

トランスミッターからの赤外線の届く範囲は、おおよそ下図の範囲ですので図に示された範囲内でヘッドホンが使用できるように、トランスミッターを設置してください。
赤外線が届かない場合、ヘッドホンにミュートがかかり、音が出ません。

トランスミッターは横置き／縦置きを好みで選ぶことができます。
ご購入状態は横置きで使用するようになっています。

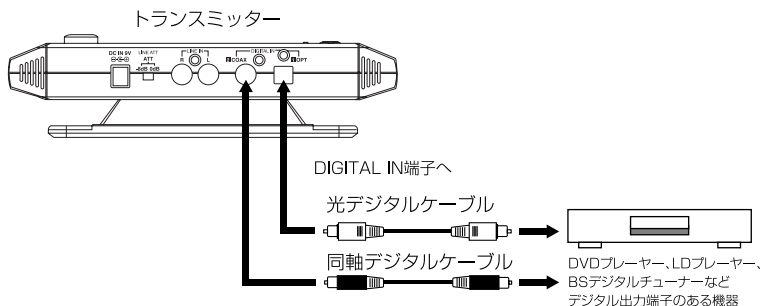
## 縦置きで使用する場合。

底面2カ所のスタンドを取り付けているねじをプラスドライバーで外してください。

縦置き用スタンドをスタンドの溝にはめてスライドさせてください。
側面2カ所のねじ穴に外したねじを使ってスタンドを取り付けてください。

## ご注意

● 壁や不透明なガラスなどは赤外線を通しません。トランスミッターはヘッドホンをご使用になる場所から見通せる位置に設置してください。
● トランスミッターを設置するときは、テレビの上など不安定な場所は避けて下さい。落下は思わぬケガや故障の原因となります。
● トランスミッターの赤外線発光部の明るさにムラがある場合がありますが、赤外線の届く範囲などの性能には影響ありません。

# 接続のしかた

## デジタル機器との接続

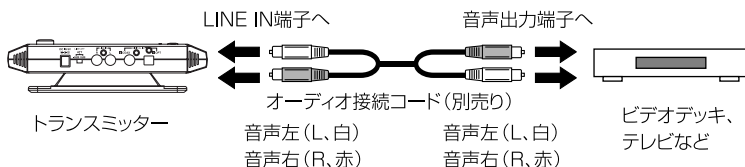
付属の光デジタルケーブル、又は別売りの同軸ケーブルを使って、DVDプレーヤー、LDプレーヤー、BSデジタルチューナーなどのデジタル出力端子と、トランスミッターのDIGITAL IN端子をつないでください。

### ご注意

- 光デジタルケーブルは非常に精密に作られています。このため、外部からの力や衝撃に対して弱くなっておりますので、プラグを抜き差しするときは丁寧にお取り扱いください。
- 本機にはAC-3 RF端子が装備されていませんのでLDプレーヤーのAC-3 RF信号を直接入力することはできません。
- 本機のデジタル入力は44.1KHz及び48KHz以外のサンプリング周波数には対応していません。（対応していないサンプリング周波数のデジタル信号が入力された時、DIGITAL入力インジケーターが点滅します。）DVDプレーヤー側のデジタル出力に関する設定を48KHzにしてお使いください。又、BS放送のAモードやDATのLPモード（サンプリング周波数32KHz）のときは、アナログで入力してください。
- 本機は「MPEG-2　AAC」方式に対応していません。BSデジタルチューナー側のデジタル出力に関する設定を「リニアPCM」にしてお使いください。

### DTSについて

- DTS音声で収録されたDVDを再生するには、DTSに対応したDVDプレーヤーが必要です。（詳しくはお使いのDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。）
- DTSフォーマットのLDやCDで、早送り時や巻き戻し時などにノイズが発生することがありますが、故障ではありません。
- DVDプレーヤーのDTSデジタル出力端子が「OFF」や「切」になっている場合は、DVDメニューでDTS出力を選択しても音が出ないことがあります。
- DVDプレーヤーと本機をアナログで接続している場合、音が出ないことがあります。この場合は、デジタルで接続してください。

## アナログ機器との接続

別売りのオーディオ接続コードを使って、ビデオデッキやテレビなどの音声出力端子と、トランスミッターのLINE IN（L/R）端子をつないでください。

ポータブル機器などのステレオヘッドホン端子からLINE IN端子へつなぐときは、市販の変換コード（ステレオミニプラグ←→ピンプラグ×2）などをお使いください。
この場合、プレーヤー側のボリュームが低く設定されていると、ノイズが発生することがあります。

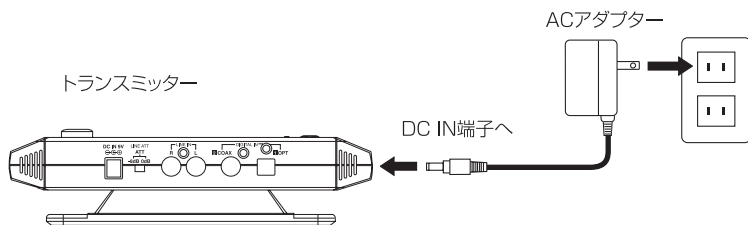
### ATTスイッチについて

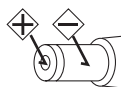
アナログ入力で音声が小さいときは、トランスミッター裏面にあるATT（アッテネーター）スイッチを「0dB」に切り換えてご使用ください。

| 位置 | 視聴ソース |
|---|---|
| 0dB | テレビやポータブル機器など、出力レベルの低いもの |
| -8dB | その他の機器（出荷時の設定） |

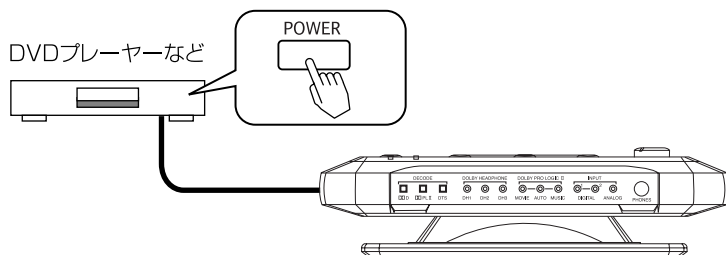
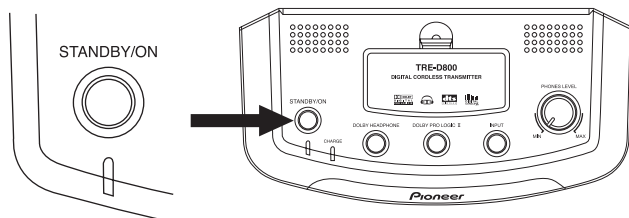
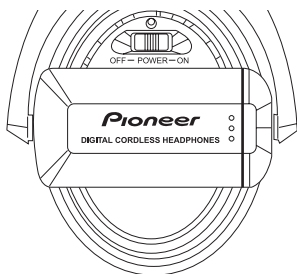
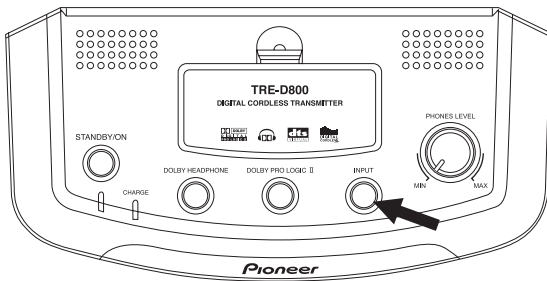
### ご注意

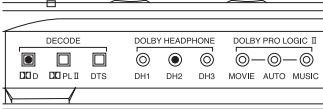
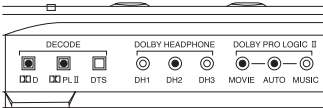
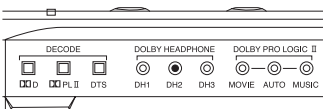
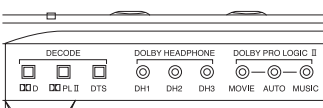
ATTスイッチは、必ず音量を下げてから切り換えてください。
アナログ入力された音声が歪む（同時にノイズが発生する場合もあります）ときは、ATTスイッチを「ー8dB」に切り換えてください。

## 電源の接続

### ご注意

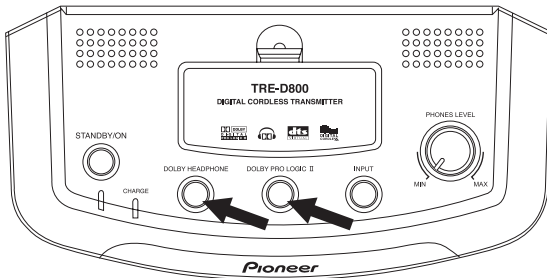
●必ず付属のACアダプター（極性統一形プラグ･JEITA規格）をお使い下さい。プラグの極性など異なる製品を使うと、故障の原因になります。

●電圧やプラグ極性が同じACアダプターでも、電流容量その他の要因で故障の原因になります。必ず付属のACアダプターをご使用ください。

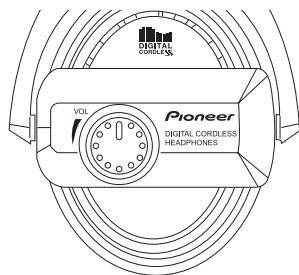
# 使い方

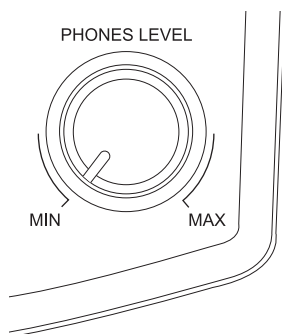
1.トランスミッターに接続した機器の電源を入れる。

2.スタンバイ/オン ボタンを押して、トランスミッターの電源を入れる。
スタンバイインジケーターが消灯します。

3.ヘッドホンのスイッチをオンにする。
POWERインジケーターが赤く点灯し、電源が入ります。

4.INPUTボタンを押して、音声を聞く機器を選ぶ。

| 点灯するインジケーター | 聞きたい音源 |
|---|---|
| DIGITAL1 | DIGITAL IN 1（OPT）端子に接続した機器の音声 |
| DIGITAL2 | DIGITAL IN 2（COAX）端子に接続した機器の音声 |
| ANALOG | LINE IN 端子に接続した機器の音声 |

ご注意

二重音声（MAIN/SUB）の音源を視聴するときは、LINE IN端子に接続して、プレーヤーやテレビのほうで聞きたい音声を選んでください。

5.手順4で選んだ機器の再生を始める。

6.ドルビーヘッドホンモードボタン及びドルビープロロジックⅡモードボタンを繰り返し押して、出力モード（サラウンド効果）を選ぶ。

| 点灯するインジケーター | 出力モード(サラウンド効果) |
|---|---|
| | **マルチチャンネルソースDHモード**<br>マルチチャンネルのドルビーデジタルフォーマットで記録された信号やDTSフォーマットで記録された信号をドルビーヘッドホン再生<br>前方に置かれた左右2個のスピーカーに加え、1個のセンタースピーカー、後方に置かれた左右2個のスピーカー、及び1個のスーパーウーファーから音が聞こえてくるような効果が得られます。 |
| | **ドルビープロロジックⅡDHモード**<br>ステレオソースをドルビープロロジックⅡでマルチチャンネル化し、ドルビーヘッドホン再生<br>前方に置かれた左右2個のスピーカーに加え、1個のセンタースピーカー、後方に置かれた左右2個のスピーカー、及び1個のスーパーウーファーから音が聞こえてくるような効果が得られます。 |
| | **ステレオソースDHモード**<br>ステレオソースをドルビープロロジックⅡを「OFF」にしてドルビーヘッドホン再生<br>前方におかれた左右2個のスピーカーから音が聞こえてくるような効果が得られます。 |
| | **ドルビーヘッドホンモード「OFF」**<br>通常のヘッドホン再生。 |

7.音量を調整する。

PHONES端子に接続したヘッドホン（別売り）の音量を調整するには
LEVELつまみを回して調整してください。

操作

## ドルビーヘッドホンについて

この製品にはドルビーヘッドホン技術が搭載されています。ドルビーヘッドホンは、2chステレオヘッドホンでマルチチャンネル立体音響を楽しむためのヘッドホンバーチャル技術です。ヘッドホンを接続するだけで、ドルビーデジタル、DTSを始めとする最新のマルチチャンネルソースはもちろん、ドルビープロロジックⅡデコード処理されたステレオソースからも、臨場感溢れる、高忠実度なサラウンド音響のもたらす感動を手軽にお楽しみいただくことが可能です。

## ドルビーヘッドホンの効果

通常ヘッドホンでステレオを聞くと、スピーカーのように眼前に音が定位することはなく、すべての音が頭の中で鳴ってしまいます。ヘッドホンステレオになれている人たちにとってもこの不自然さは快適なものではなく、ましてや映画をヘッドホンで鑑賞することは大きな苦痛でした。ところがドルビーヘッドホンを聞くと、部屋に置かれたスピーカーが再現されるように聞こえます。
部屋のタイプは3種類用意されています。

DH1：ミキシングルームのように残響を抑えた空間
DH2：適度に残響のある一般的なリスニングルーム（初期設定では、この状態になっています）
DH3：小規模な映画館

## ドルビープロロジックⅡについて

ドルビープロロジックⅡは全ての2チャンネルソースを5.1チャンネルで再生するためのデコード技術で、メイン5チャンネルの再生帯域はドルビーデジタル同様にフルバンドです。オリジナル音源に対する色付けを極限まで排除し、高音質を維持しながら、自然な空間表現を実現することが可能です。

## ドルビープロロジックⅡの各種モードについて

### AUTOモード（初期設定では、この状態になっています）

AUTOモードは、入力ソースによってMOVIEモードかMUSICモードを自動的に選択します。
デジタル入力でDVDを再生したときやアナログ入力時はMOVIEモードを選択します。
デジタル入力でCDを再生したときはMUSICモードを選択します。

### MOVIEモード

MOVIEモードはステレオ音声によるTV番組やドルビーサラウンドエンコードされたすべてのプログラムソースに向いています。ディスクリート5.1チャンネル音響に迫る音場再現が可能です。

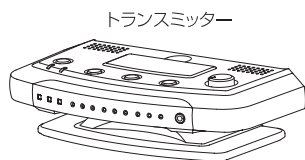
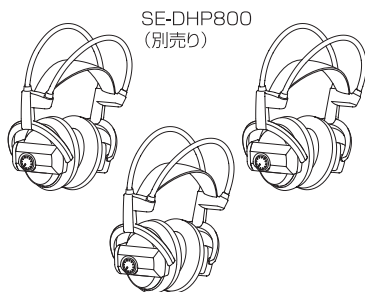
### MUSICモード

MUSICモードはあらゆるステレオ音楽録音で用いられ、広く深い音場を確保出来ます。

# 増設ヘッドホンのご案内

本システムでは、2通りの増設ヘッドホンを用意しています。

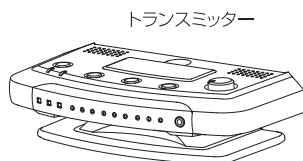
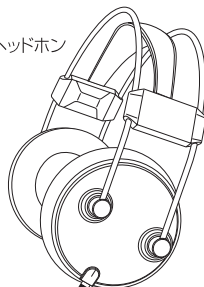
### コードレスで多人数で楽しむには

DIGITAL CORDLESS のロゴがついたコードレスヘッドホン※を増設することで、多人数でサラウンドを楽しめます。
受信エリア内であれば、何台でも使用可能です。

ご注意
本機は、デジタル赤外線伝送方式を採用しているため、アナログ方式の赤外線コードレスヘッドホンは使用出来ません。

※2003年10月現在、SE-DHP800（別売り）、SE-DIR1000（別売り）があります。

### 通常のヘッドホン（有線タイプ）を接続するには

PHONES端子にお手持ちのヘッドホンを接続することにより、サラウンドを楽しめます。

ご注意
ヘッドホンをPHONES端子から抜くときは、コードを引っぱらずに、必ずプラグをつかんで抜いてください。

# 困ったとき!?

故障かな?と思ったらチェックしてみてください。ちょっとした操作ミスが故障と思われがちです。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用のAV機器等（PC含む）も合わせてお調べください。下記の項目に従って再度点検されても直らないときは、お買い上げの販売店またはパイオニアサービスステーションにご連絡ください。

| 症　状 | 考えられる原因と処置 |
|---|---|
| 音が出ない<br>音がとぎれる<br>ノイズが入る | ●ヘッドホンの電池の+と−の向きを確認する。<br>●ヘッドホンの電池が完全に消耗している。<br>●ACアダプターの接続を確認する。<br>●トランスミッターとAV機器の接続を確認する。<br>●トランスミッターに接続したAV機器の電源を入れ、再生を始める。<br>●INPUTボタンの設定が、音を聞きたい機器を正しく選んでいるか確認する。<br>●トランスミッターのアナログ入力に接続しているときは、接続した機器の音量を上げる。<br>●ヘッドホンの音量を上げる。<br>●トランスミッターの電源がONになっているか確認する。<br>●DTSに対応していないDVDプレーヤーでDTS音声トラックを再生している。DTSに対応したDVDプレーヤーを使用する。<br>またはDolby DigitalやPCMトラックを選択する。<br>●DVDプレーヤー（ゲーム機含む）のDTSデジタル出力設定が「OFF」や「切」の状態で、DTS音声で収録されたDVDを再生している。DVDプレーヤーに付属の説明書をご覧になり、DTSデジタル出力設定を「ON」や「入」に切り換えてください。<br>●DVDプレーヤー（ゲーム機含む）と本機をアナログで接続している状態でDTS音声で収録されたDVDを再生している。<br>●BSデジタルチューナー（TV含む）と本機をデジタルで接続している状態で、デジタル出力設定が「PCM」になっていない。BSデジタルチューナーに付属の説明書をご覧になりデジタル出力設定を「PCM」にしてください。またはアナログで接続してください。<br>●ヘッドホンに赤外線が届いていない。ヘッドホンとトランスミッターの間に障害物がないか確認する。なるべくトランスミッターの近くでヘッドホンを利用する。トランスミッターの位置や角度を変える。ヘッドホンの赤外線受光部を手や髪でおおっていないか確認する。<br>●ヘッドホンにトランスミッター以外から赤外線が入る。ヘッドホンの赤外線受光部に直射日光が当たっていないか確認する。赤外線の多いプラズマディスプレイが近くにある場合は、本システムを離す。<br>●デジタル接続で、デジタル信号のクロック精度が悪く、コードレスヘッドホンから音が出ない。又は音切れが発生する。アナログ入力をご使用ください。 |

| 症　状 | 考えられる原因と処置 |
| --- | --- |
| DIGITAL入力インジケーターが点滅している | ●本機で対応していないサンプリング周波数のデジタル信号が入力されています。DVDプレーヤー側の出力を48KHに設定して頂くか、アナログ入力をご使用ください。 |
| DTS信号のソースが再生出来ない | ●AV機器（ゲーム機含む）でDTS信号の出力に対応していない。DTS信号出力に対応した機器に変更する。 |
| 音がひずむ（同時にノイズがでる場合もある） | ●トランスミッターのATTスイッチを「−8dB」に切り換える。<br>●トランスミッターとAV機器のヘッドホン端子を接続したときは、接続した機器の音量を下げる。 |
| 音が小さい | ●トランスミッターのATTスイッチを「0dB」に切り換える。（アナログ入力時）<br>●トランスミッターとAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、接続した機器の音量を上げる。<br>●ヘッドホンの音量を上げる。 |
| サラウンド効果が得られない | ●DHモードが「OFF」になっている。<br>●再生中の音声がマルチチャンネルの信号になっていない。<br>モノラル音源の場合、サラウンド効果が得られません。 |
| 「DD D」インジケーターが点灯しない | ●DVDプレーヤー（ゲーム機を含む）の音声デジタル出力の設定が「PCM」になっている。DVDプレーヤーに付属の説明書をご覧になり、デジタル出力を「Dolby Digital」に設定する。<br>●ドルビーデジタルフォーマットで記録されていない信号を再生している。<br>●再生中のチャプターの音声がドルビーデジタルになっていない。 |
| 「DD PLⅡ」インジケーターが点灯しない | ●DHモードが「OFF」になっている。<br>●DTSフォーマットで記録された信号を再生している。<br>●2ch以外のドルビーデジタルフォーマットの信号を再生している。<br>●ドルビープロロジックⅡが「OFF」になっている。 |
| 「DTS」インジケータが点灯しない | ●DVDプレーヤー（ゲーム機を含む）のDTSデジタル出力設定が「OFF」や「切」になっている。DVDプレーヤーに付属の説明書をご覧になり、DTSデジタル出力設定を「ON」や「入」に切り換えてください。<br>●DTSフォーマットで記録されていない信号を再生している。<br>●再生中のチャプターの音声がDTSの信号になっていない。<br>●DVDプレーヤーがDTSに対応していない。DTSに対応したDVDプレーヤーをご使用ください。 |
| 充電出来ない | ●乾電池が入っている→付属の充電池を入れる。<br>●付属以外の充電式電池が入っている→付属の充電池を入れる。<br>●充電式電池が劣化している→充電池を交換する |

静電気など、外部からの影響により本機が正常に動作しないことがあります。このようなときは、ACアダプターを一度抜いて再び差し込むことで正常動作になる場合があります。これで解決しないときは、お買い上げの販売店または最寄りのサービスステーションにご相談ください。

# 使用上のご注意

## ヘッドホンについて

ヘッドホンは、音量を上げすぎると音が外にもれます。音量を上げすぎて、まわりの人の迷惑にならないように気をつけましょう。

雑音の多い所では、音量を上げてしまいがちですが、ヘッドホンで聞くときはいつも、呼びかけられて返事が出来るくらいの音量を目安にしてください。

耳を刺激するような音量で長時間聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

## イヤーパッドについて

ヘッドホンのイヤーパッドは布製ですので、整髪剤の種類等によっては色おちする場合があります。

## お手入れのしかた

機器の外装の汚れは、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、うすい中性洗剤溶液をしめらせた布で拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは、表面の仕上げをいためるので使わないでください。

## 取り扱いについて

●トランスミッター、ヘッドホンを落としたりぶつけたりなど強いショックを与えないでください。故障の原因になります。

●各機器を分解したり、開けたりしないでください。

## 電源と設置について

●長い間使わないときは、ACアダプターをコンセントから抜いてください。コンセントから抜くときは、コードを引っ張らずに必ずACアダプター本体をつかんで抜いてください。

●次のような場所には置かないでください。

・窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所、及び暖房器具の近くなど温度が非常に高い所。

・ほこりの多い所。

・ぐらついた台の上や傾いた所。

・振動の多い所。

・風呂場など、湿気の多い所。

## 異常や不具合が起きたら

●万一異常や不具合が起きたり、異物が中に入ったときは、すぐに電源を切り、お買い上げ店、またはパイオニアサービスステーションの窓口にご相談ください。

●お買い上げ店、またはサービス窓口にお持ちなる際は、必ずヘッドホンとトランスミッターを一緒にお持ちください。

# 保証とアフターサービス

| | |
|---|---|
| 保証書（別添） | 保証書は必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取り、内容をよく読んで大切に保管してください。<br>**保証期間は購入日から1年間です。**<br>当社は、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、最低6年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。 |
| 修理に関するご質問、ご相談は | お買い上げの販売店、または最寄りのパイオニアサービスステーションをご利用ください。所在地、電話番号は別添の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。 |
| 保証期間中は | 修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理致します。 |
| 保証期間が過ぎているときは | 修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理致します。 |
| 連絡していただきたい内容 | ・ご住所・ご氏名・電話番号・製品名・型番・ご購入日<br>・故障または異常の内容（できるだけ詳しく） |

# 仕　　様

## ■トランスミッター TRE-D800

デコーダー機能
- ドルビーデジタル
- ドルビープロロジックⅡ
- DTS
- PCM（Fs=44.1KHz,48KHz）

ドルビーヘッドホン（DH）モード
- DH1／DH2／DH3／OFF

ドルビープロロジックⅡモード
- AUTO／MOVIE／MUSIC／OFF

| | |
|---|---|
| 変調方式 | DQPSK |
| 副搬送波周波数 | 3.75MHz |
| 到達距離 | 正面約8m |
| 伝送帯域 | 12Hz〜22KHz |
| ひずみ率 | 0.1%以下（1KHz） |
| 音声入力 | 光デジタル入力（角型）×1<br>同軸デジタル入力（RCA端子）×1<br>アナログ入力（RCA端子L/R）×1 |
| 電源 | DC9V（付属のACアダプターを使用） |
| 外形寸法（突起部含まず） | 209（幅）×50（高さ）×104（奥行き）mm |
| 質量 | 約520g |

## ■ヘッドホン SE-DHP800

| | |
|---|---|
| 再生周波数帯域 | 12Hz〜22KHz |
| 電源 | DC2.4V（付属充電池×2）<br>DC3V　（単3形乾電池×2） |
| 質量 | 約250g（電池含まず） |

## ■付属品

ACアダプター（9V800mA）×1
専用充電式ニッケル水素電池（単3形）×2
光デジタル接続ケーブル（1.5m）×1
縦置き用スタンド×1
取扱説明書×1
保証書×1
ご相談窓口・修理窓口のご案内×1

●本機の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

## お客様ご相談窓口（全国共通フリーフォン）

カスタマーサポートセンター

●家庭用オーディオ/ビジュアル商品お問い合わせ窓口　フリーフォン **0070-800-8181-22**

●カタログのご請求窓口　フリーフォン **0070-800-8181-33**

＜ご注意＞
●PHS、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話及び海外からの国際電話ではご利用になれません。予めご了承ください。
●修理に関しては別添の『ご相談窓口・修理窓口のご案内』をご参照ください。

ホームページでのカタログ請求とメールサービス登録のご案内
*http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg.html*

長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか

・電源コードや電源プラグが異常にあつくなる。
・電源コードにさけめやひび割れがある。
・電気が入ったり切れたりする。
・本体から異常な音、熱、臭いがする。

すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店またはパイオニアサービスステーションに点検（有料）をご依頼ください。



**東北パイオニア株式会社** 〒994-8585 山形県天童市久野本1105
Printed in China〈WRA1090-A〉